

平成13年度 冬作(麦類・いぐさ・水稻刈跡)関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成13年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成14年9月5日(木)、植調会館3階会議室において開催された。

本年度供試された冬作関係除草剤は、作用性試験8剤、

適用性試験16剤で、生育調節剤はなかった。

このうち適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表のとおりである。

平成13年度 冬作関係除草剤・生育調節剤中央判定および使用基準

A. 除草剤

I. 適用性試験

(1) 小麦

薬剤名	中央判定	使用基準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1. AK-01 液剤 ・グリサートイソプロピルアミン塩 41%	継								・効果、葉害の確認
2. DPX-16 顆粒水和剤 ・チフェスルフロメチル 75%	実・継	一年生 広葉雑 草、スズメ ノテツボウ	土壌ま たは茎 葉兼土 壌	播種後～節 間伸長前 スズメノテツボウ 5葉期まで	0.5～1g 散布水量 5～10L(播 種後～小 麦2葉期処 理は水量 10L, 1gの 小麦3葉期 以降の処 理は水量 2.5～10L)	全土壌 (砂土を 除く)	東北～ 四国	1) 単用での茎葉 処理の場合は、 0.75～1g/aで の使用が望ま しい。	・播種後～小 麦2葉期処 理での効 果、葉害の 確認、地域 拡大
				小麦3葉～ 節間伸長前 スズメノテツボウ 3～5葉期ま で			九州	2) 少水量散布の 場合(2.5L/a) は専用ノズルを 使用する。	
				幼穂形成期	0.75～1g 散布水量 10L		北海道	3) 播種後処理で はエムゲウに効 果が劣る。 4) 処理後散布器 具をよく洗浄 する。	
5. F-701 顆粒水和剤 ・カルフェントラジンエチル 0.7% ・グリサートアノニウム塩 25%	実	多年生 イネ科 雑草(シ バムギ、レ ッドトウ ブ)	茎葉	耕起10日以前 雑草生育期	50～70g 散布水量 10L	全土壌	北海道		

注) _____ は、拡大された部分を、..... は、一部拡大されたことを示す。

薬剤名の _____ は、初めて使用基準が作成されたことを示す。

(1) 小 麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
6. MK-243 顆粒水和剤 ・インガノファン 50%	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後 雑草発生前	8～10g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)	九州		・地域拡大 ・生育期処理 の効果の確認 ・低薬量での 効果の確認
				イネ科雑草 1 葉期(小麦 2 葉期まで)					
8. MON-93A 液剤 ・グリホサートアンモニウム 塩 33%	継								・効果、薬害 の確認
9. MON-96A 液剤 ・グリホサートアンモニウム 塩 41%	実・継	多年生 イネ科 雑草(シ バムギ、レ ットトッ グ)	茎葉	耕起 5 日以 前 雑草生育期	50mL 散布水量 10L	全土壌	北海道	1) 少水量散布の 場合は専用ノ ズルを使用す る。 2) 周辺作物に飛 散しないよう に注意する。 3) 展着剤を加用 しない。	・北海道にお ける耕起 3 日前処理で の効果、薬 害の確認
					25mL 散布水量 2.5～5L				
		一年生 雑草全 般		耕起10日以 前 雑草生育期	25～50mL 散布水量 2.5～10L		東北以 西		
10. NC-362 水和剤 ・ジフルフェニカン 4% ・IPC 30%	実・継 (従来 通り)	一年生 雑草全 般	土壌	播種後 雑草発生前	20～25g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)	北海道	1) 碎土、整地、覆 土をていねい に行って均一 に散布する。 2) 覆土深が浅く ならないよう に注意する。 3) 一過性の白斑 を生じることが ある。	・小麦1～2葉 期処理の北 海道での効 果、薬害の 確認
			茎葉兼 土壌	小麦2～4葉 期					
				小麦2～3葉 期	15～20g 散布水量 10L	埴土～ 壤土	東北以 西		

(1) 小 麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
12. NH-9301 フロアブル剤 ・ピラフルフェンエチル 2%	実	一年生 広葉雑 草	茎葉	広葉雑草 2～4葉期	5～10mL 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)	全域	1) 体系処理：イ ネ科雑草に有 効な既登録土 壌処理剤との 組合せで使用 する。 2) 極端な低温条 件では10mLを 使用する。 3) 越年した雑草 に効果が劣る。 (北海道) 4) 展着剤を加用 しない。	
				春雑草発生 始期	5～7.5mL 散布水量 10L				
		ヤムグウ		ヤムグウ2～6 節期	5～10mL 散布水量 10L		東北～ 四国		
13. SYJ-100 乳剤 ・プロスルホカルフ 800g/L	継								・効果、薬害 の確認（と くに広葉雑 草）
14. ZK-122 液剤 ・グリホサートカリウム塩 616g/L	継								・効果、薬害 の確認
15. アイキシニル フロアブル剤 ・アイキシニル 6%	継								・効果、薬害 の確認

(2) 大 麦

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1. DPX-16 顆粒水和剤 ・チフェスルフロメチル 75%	実・継	一年生 広葉雑 草、スズメ ノテツボウ	土壌ま たは茎 葉兼土 壌	播種後～節 間伸長前 スズメノテツボウ 5葉期まで	0.5～1g 散布水量 5～10L(播 種後～大 麦2葉期処 理は水量 10L)	全土壌 (砂土を 除く)	東北～ 四国	1) 単用での茎葉 処理の場合は、 0.75～1g/aで の使用が望ま しい。 2) 播種後処理で はヤムグウに効 果が劣る。 3) 処理後散布器 具をよく洗浄	・播種後～大 麦2葉期処 理での効 果、薬害の 確認、地域 拡大
				大麦3葉～ 節間伸長前 スズメノテツボウ 3～5葉期ま で			九州		

(2) 大 麦 つづき

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
2.F-8426 顆粒水和剤 ・カルフェントラゾニエチル 40%	実・継	ヤムグウ	茎葉	ヤムグウ2～4 節期	0.3～0.5g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)		1) ヤムグウ以外の 雑草に有効な 除草剤との組 合せて使用す る。 2) 展着剤を加用 しない。	・適用草種の 確認
3.MK-243 顆粒水和剤 ・インタノファン 50%	実・継	一年生 雑草全 般	土壌	播種後 雑草発生前 イネ科雑草 1葉期(大麦 2葉期まで)	8～10g 散布水量 10L	全土壌 (砂土を 除く)	九州		・地域拡大 ・生育期処理 の効果の確 認 ・低用量での 効果の確認
4.SYJ-100 乳剤 ・プロスルホカルブ 800g/L	継								・効果、薬害 の確認(と くに広葉雑 草)

(3) 水稻刈跡

薬 剤 名	中央 判定	使 用 基 準							継続の内容
		対象 雑草	処理法	処理時期	使用量 製品/a	適用 土壌	適用 地域	使用上の注意	
1.MON-001 液剤 ・グリホサートカリウム塩 52%	継								・効果の年次 変動確認